

**医療の連携**

紹介率30%を目標にしていたが、年間平均28.8%にとどまり、30%を超えた月は3カ月のみであった。しかし、地域住民・医療機関との関係は益々深まり、2003年との比較で初診患者数は700件、紹介患者数は200件の増加があった。

その要因としては、6月から行っている「出前・健康講座」が考えられる。三角・大矢野地区の公民館などで15回、参加者総数600人を数えた。地域の老人会・婦人会・スポーツクラブと連携を図りながら、2004年度のモットーである、コラボレーションの実現ができたと考える。

**転院援助**

転院援助については、7月から回復期リハビリ病棟が本格的に稼働したため、リハビリ目的での転院はほとんどなくなった。MSWが関わった転院調整数は78件であり、そのほとんどが療養目的になっている。近隣に療養型の医療施設がないために転院調整の困難さが如実に現れ、調整日数と面接回数が長くなっている。又、転院そのものが患者・家族に必ずしも有益でないため、転院に対する理解を求めるまでに時間と労力がかかる。地域の介護保険施設への入所要請も思うようにならないのが現実である。今後もこの課題はつづくものとする。

**退院援助**

三角・大矢野地域は、高齢者率30%、又高齢者のみの世帯が多く、退院後の自宅生活の実現は介護度が高くなると難しい現状にある。

退院前には、地域の担当ケアマネージャーとの関係調整を

行うが、必ずしもスムーズにできているとは考えられない。地域の在宅介護を支える事業所との勉強会、交流会などを通じ、より一層の信頼関係を築くべく努力が必要と考えている。特にケアマネージャーの資質（基礎となる資格）を充分考慮しながら、患者・家族サイドへの情報提供、紹介を行うことの重要性も痛感する。

さらに、例え幸いにも自宅退院ができたとしても再入院、再々入院を繰り返す高齢患者が多いことに注目している。その原因調査と対策検討は新年度の課題として残っている。

転院調整件数

	病病連携	病診連携	その他	計
一般紹介退院数	48	14	16	78

援助内容別件数

医療・所得保障	169	
受診・受療 援 助	転 院	707
	その他	13
生活環境上の援助	557	
そ の 他	1	
心理・情緒的援助	5	
合 計	1,452	

紹介と逆紹介

